

プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頗りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間かけて記事が差し変わつて行くと

この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまった前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は

語る。時空間を費く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報道腕章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。



記憶の報道

なるべく新聞内容充実

可内容充実

の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。



発行: 西成なるへそ新聞社
ブレーカーフロント実行委員会

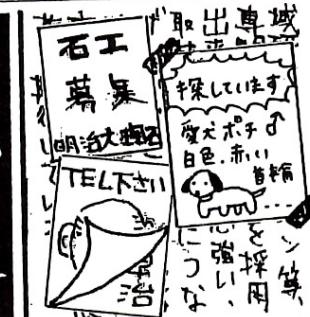
発行人: 山田昌
編集: ブレーカーフロント実行委員会
窓口窓: 村田仁

氷の数が人の数

水呑み地蔵周辺では、八月二十三、二十四日に行われる地蔵盆の準備に忙しい。夕方六時頃から八時頃にかけて近隣から一二三百人の子どもたちが集まつてくるといふ。「二二の地蔵盆は、とくにお墓

子がたくさんもぐれる
といつうわざが子どもたちの間で広まつて、
大勢来てくれるのよ。」
と世話役の一人である
女性(41)は笑顔で話す。
ポップコーンやかき氷、
お菓子がふるまわれ、
暑い時期なのでとくに
かき氷が人気のようだ。
「かき氷のカツアの数
で何人来てくれたかわ
かるからね、たいへん
だけど楽しみだわ」と、
のこと。今年も多くの
人出で賑わいそつた。

今年も恒例の盆踊り大会が
萩森茶屋の三角公園で行わ
れた。この日のために組ま
れた櫓は、高さ約五メート
ルを越える。櫓の上には、
「鉄砲節」でおなじみの鉄
砲光三郎(てっぽうみつ
さぶろう)が音頭取りとし
て立ち、河内音頭の踊りの
輪が櫓を中心六三重、四重
に作られた。光三郎は昨年



の正月には、新世界「新花月」の舞台にも立つてゐる。近くに住む高校生の角田昇さん(17)によると、人出は年々増えており、今年は特に若い女性連れも多く見られるという。屋台も數多く並び、祭りの雰囲気を

The logo for Kidohon Shōten (柳本商店) features a circular emblem containing a stylized tree or brushstroke design. To the right of the emblem, the store's name is written vertically in large, bold, black characters. Below the name, the address "山王 1丁目 12番4号" is also written vertically.

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013

Breaker Project